

## [002] 九大國文學會報 : 2

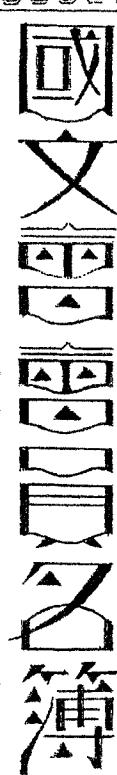
<https://doi.org/10.15017/15458>

---

出版情報：九大國文學會報. 2, pp.5-10, 1931-06. 九州帝國大學國文學會  
バージョン：  
権利関係：

會報

第二号 トシテ直行セラムニエ



昭和二年正月現在

第二号

國文書研究室印

# 九大國文學會定款

(※印改訂)

## 第一條 名稱及組織

本會ハ九大國文學會トヨビ、本學國文科教官、同卒業生、同在學生ニヨリ成文スル。

## 第二條 會長及幹事

本會ハ國文科教官ノ中御(一名)ナ會長ニ推戴シ、國文科卒業生、同在學生ノ中三名ヲ幹事ニアテル。

但シ卒業生一名ガ常任幹事ニ當リ、學生幹事ハ任期ヲ一ヶ年トシ在學二年ノ學生ニ一名ガ之ニ當ルヲ通常トスル。

## 第三條 會ノ所在

本會ハ事務室ヲ國文學研究室ニ置キ、常任幹事が會務ヲ總括スル。

## 第四條 目的

本會ノ目的ハ會員相互ノ交誼親睦ト其研究生活、向上トヲ併セ收ムルニ

アル。

## 第五條 行事

本會ハ右ノ如ク目的遂行ヲ庶幾スル一切ノ行動ヲ認メルモノデアルガ、通常左ノ如ク定メテ之ヲ行フ。

### (1) 研究發表會 總談茶話會

何レモ適當ノ機會アル毎ニ之ヲ行フ。

### (2) 卒業入學生送迎宴會、研究視察旅行

何レモ適當ノ機會ニ之ヲ行フモノデアルガ、宴會ノ場所及會費ハ其ノ都度適宜ニ之ヲ定メル。

但シ宴會ニ於ケル教官並ニ卒業生ノ會費ハ通常一円ヲ増スモノトスル。

### (3) 會員ノ不幸ニ對スル弔意

會員ノ死亡ニ對シ、本會ハ金十圓ノ香奠ヲ贈ツテ弔意ヲ表スル。

但シ會員ノ一等親、配偶者、死亡ニ際シテハ右ニ準ジテ幹事適宜ニ取計ラフモノトスル。

(二) 會報ノ發刊

\* 本會ハ毎學期會報ヲ發刊シ會員全部ニ之ヲ配布スル。

第六條 會費

本會ハ右ノ行事ノ全部又ハ一部ノ費用支辨ノタメ一ヶ年二圓ノ會費ヲ徵集スル。會員ハ毎學年ノ初幹事ニ之ヲ納メルモノトスル。

\* 但シ卒業生ハ一ヶ年一圓トスル(從來二圓ノモノ)

第七條 定款ノ變更

定款變更ノ際ハ全會員ノ協議ヲ終テ行フモノトスル。

以上

昭和六年六月

九大國文學會

# 雑報

五月十六日(土)

前助手野崎氏の送別會を兼ねて國文學會の新入生歡迎會を橋口町風洲屋に於て開催、春日、小島西先生を初め集るもの二十五名、茶菓を喫しつゝ心ゆくまで談笑す。新幹事として藤井毅、林毅就任した。

六月二十六日(金)

第二學生集會所に於て國文學會例會を開く豫定。

## 後記

○

今般藤井君と僕とが國文學會の幹事に就任することに至つたのですが、諸君の御後援を切望する次第です。

○

國文會員の間にも何か研究會とか講讀會とかいふものがあつてもよい、否あらねばならぬとは國文會員の誰もが齊しく以前から要望してゐた事であつたが、今度いよ／＼之が實現を見るに至つた。即ち毎週水曜日には春日先生御指導の下に第二學生集會所に紫式部日記の講讀をやつてゐる。約十人ばかりの出席者があつて大変愉快である。それから隔週火曜日には夜間西先生の御宅に集つて西鶴の一代女の研究を行つてゐる。卒業生の御方も御暇の折は御出席御意見を開かせて頂き度い。

○

これは卒業生の御方へのお願ひであるが、國文學會定款の第六條に少しく変更がありましたので何卒御賛同を賜はりたい。

序に會費のことですが之は各自べく早く納めて下さると大変都合がいいのです。

○

今春は一人も卒業生を送り出して何とか心細くなつてゐたが、更に十二人の新入生を得て再び活氣を呈して來た。之は昨年の五人に比べると正に二倍半の増加で、かくして国文會が段々發展してゆくことはまことに喜ばしいことである。

○

幹事の藤井君は盲腸炎とかで病臥靜養中である。御快癒の一日も遠かならんことを祈る。

○

では吾々の眼前に迫つた三ヶ月間の自由の天地を海に、山に、將書窓に思ふ有余活躍しやうではありませんか。(林)